※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	声楽 （独唱）	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の音楽１（教育芸術社）						
副教材等	イタリア歌曲集１・コンコーネ 50 番（全音出版）・日本歌曲名歌集（原調版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業ではイタリア歌曲集とコンコーネ５０番、ファイル、筆記用具を持参してください。専門実技の力を伸ばすためには不断の努力が必要です。日々の練習時間を毎日の生活で確保し、指導された内容について復習を十分に行い、ソルフェージュや音楽理論、演奏研究の知識や技能を総合的に活用し、正しく譜読みするなど十分な準備をして授業に臨みましょう。普段の授業の成果を発表する場として、学内演奏会や地域の演奏会など学内外で発表の機会があります。試験の課題だけでなく、進度に合わせて本番で演奏する機会を積極的に持ちながら学んでいきましょう。

２　学習の到達目標

声楽に関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。
【知識及び技能】楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・楽器としての身体の仕組みや楽曲の表現内容について、曲想、歌詞、音楽の構造などに加え、文化的･歴史的背景との関わりなどについて理解をしている。【知識】 ・自分の表現意図をもって、創造的に歌唱表現するために必要な技能(曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴を生かして歌う技能など)を身につけて、歌唱で表している。【技能】	歌詞の内容や、言葉の持つ語感について考え、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うか、他の声部との関わり合いをどのように歌うかによって表現意図を持っている。また楽曲の文化的・歴史的背景や様式を踏まえた歌い方や音楽性豊かな表現について考え、創意工夫の過程において知識技能を生かし、どのように歌うかについて表現意図を持っている。	様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価します。年度末評定については専攻によって評価の比率が異なるため、教科担当より説明します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	題材	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	練習方法の確立・発声の基礎・イタリア古典歌曲の導入	①練習方法の確立 マンツーマン指導でによる形態。、担当教員より指導された内容が次の授業や試験で改善されるよう日々の練習方法を身につける。 ②イタリア語の発音 舌や唇の使い方 日本語との発音の違いに注目して基礎的な発音法を身につける ③呼吸法や身体の使い方について実践を通して理解を深める 【主に取り組む課題 I】 コンコーネ 50 番/1～6 番 S.Rosa/Star vicino C.Monteverdi/Lasciatemi morire! F.Gasparini/Caro laccio A.Caldara/Selve amiche G.F.Haendel/Ombra mai fu (アリアのみ) A.Scarlatti/Son tutta duolo など	a:【知】 ・コンコーネやイタリア古典歌曲についてリズム、速度、旋律、歌詞、強弱など楽譜に表記されていることを正しく理解している。 ・表現内容について、曲想、イタリア語や日本語の歌詞の内容、音楽の構成などに加え、作曲家や作詞家の文化的・歴史的背景などの関わりについて理解している。 【技】ベルカント唱法で表現するために必要な発声・イタリア語・日本語の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、どのように歌うかについて歌唱で表している。 b：曲種に応じた歌詞の内容や、言葉の持つ語感とフレージングについて考え、音楽の構造を分析し、創意工夫の過程において知識技能を生かし深めながら、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:イタリア古典歌曲が作られた音楽や様式について、自分の声種を確立しながら、声の特徴を生かした音楽性豊かな表現に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	第1回 実技 試験	第1回 実技 試験	日々のレッスン記録ワークシート 見取り 振り返りシート 【試験前後】 振り返りシート 【試験前後】

※令和４年度以降入学生用

後期①	正確な読譜力と豊かな歌唱表現への発展・日本歌曲へのアプローチ	④練習方法の確立 振り返りシートを用い、日々の練習のあり方を見直し工夫を重ね改善し、粘り強く稽古を重ねる習慣をより定着させる。 ⑤日本歌曲についての知識や歌唱技術および表現について学ぶ ・言葉の発音 ・ベルカント唱法における日本語の扱い方 【主に取り組む課題 II】 コンコーネ 50 番/7～13 番 A.Scarlatti/Se tu della mia morte A.Scarlatti/Sento nel core A.Scarlatti/Gia il sole dal Gange F.Durante/Vergin tutto amor V.Bellini/Per pieta bell'idor mio 平井康三郎/ゆりかご 小松耕輔/母 團伊玖磨/秋の野 團伊玖磨/からりこ 山田耕筰/この道（1、2節） 弘田龍太郎/浜千鳥	a:【知】 ・コンコーネやイタリア古典歌曲についてリズム、速度、旋律、歌詞、強弱など楽譜に表記されていることを正しく理解している。 ・表現内容について、曲想、イタリア語や日本語の歌詞の内容、音楽の構成などに加え、作曲家や作詞家の文化的・歴史的背景などの関わりについて理解している。 【技】ベルカント唱法で表現するために必要な発声・イタリア語・日本語の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、どのように歌うかについて歌唱で表している。 b:曲種に応じた歌詞の内容や、言葉の持つ語感とフレージングについて考え、音楽の構造を分析し、創意工夫の過程において知識技能を生かし深めながら、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:イタリア古典歌曲が作られた音楽や様式について、自分の声種を確立しながら、声の特徴を生かした音楽性豊かな表現に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	第2回 実技 試験	第2回 実技 試験	振り返りシート（次の目標） 日々のレッスン記録ワークシート 見取り 振り返りシート【試験前】 振り返りシート【試験後】
後期②	安定した歌唱力を目指し、歌唱表現の幅を広げる	⑥呼吸法や発声法の定着 ・理解したことの知識を実践し、粘り強く稽古を継続することにより歌唱技術を高め、豊かな歌唱表現の幅を広げる。 【主に取り組む課題 III】 コンコーネ 50 番/14～16 番 Caccini/Amarilli G.B.Pergolesi/Se tu m'ami F.Gasparini/Lasciar d'amrti G.Bononcini/Per la gloria 信時潔/北秋の 平井康三郎/しぐれに寄する抒情 瀧廉太郎/荒城の月 平井康三郎/ふるさとの		第3回 実技 試験	第3回 実技 試験	日々のレッスン記録ワークシート 振り返りシート（次の目標） 見取り 振り返りシート【試験前】 振り返りシート【試験前後】

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※　学習内容にあげた曲は課題曲として示されたものであり、全てに取り組むという意味ではない。また個別の専門的な指導の中で個に応じて他の曲も学習する。